

# 伊東忠太

## Chuta Ito

1867-1954 日本

建築家、建築史家。法隆寺が世界最古の木造建築であることを学問的に示し、日本建築史を創始した。また中国、インド、トルコを調査し東洋建築史の体系も樹立。独自の建築進化論を用い、「築地本願寺」(1934)などを設計した。

1867-1913 Japan

Architect and architectural historian. He academically proved the Horyuji (Horyu Temple) to be the world's oldest wooden architecture, and established Japanese Architecture History. He also investigated China, India, Turkey and later developed the system of Eastern Architecture. He designed the "Tsukiji Honganji (1934)" using his original architecture development theory.

## 伊東忠太

〈祐国寺鉄塔

(八角十三層磚塔)〉

(晋) 河南省開封県

1902年

乾板写真



## Chuta Ito

Photographic plate

1902

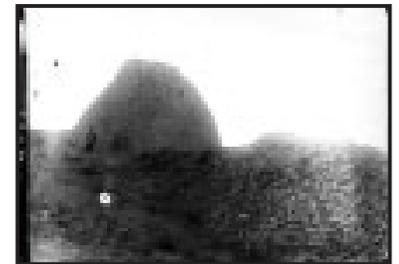
## 伊東忠太

〈万里の長城(張家口)〉

(秦) 河南省開封県

1902年

乾板写真



## Chuta Ito

Photographic plate

1902

## 伊東忠太

〈龍門石窟第三窟  
(寶陽洞)本尊〉  
(北魏)河南省洛陽県  
1902年  
乾板写真



## Chuta Ito

Photographic plate  
1902

## 伊東忠太

〈龍門石窟奉先寺洞  
(第19洞)  
本尊盧舍那佛座像〉  
(唐)河南省洛陽県  
1902年  
乾板写真

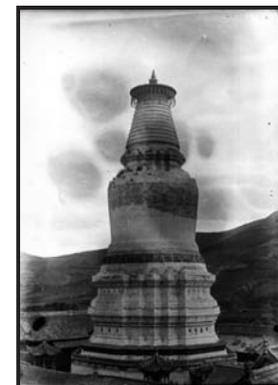


## Chuta Ito

Photographic plate  
1902

## 伊東忠太

〈大塔院寺大塔〉  
(明)山西省五台県五台山  
1902年  
乾板写真



## Chuta Ito

Photographic plate  
1902

## 伊東忠太

〈佛宮寺八角五層木塔〉  
(遼)山西省応県  
1902年  
乾板写真



## Chuta Ito

Photographic plate  
1902

伊東忠太

〈佛宮寺八角五層木塔細部〉

(遼) 山西省応県

1902年

乾板写真

**Chuta Ito**

Photographic plate

1902



伊東忠太

〈サングラム・シング廟

(王室墓苑)〉

ウダイプル郊外、

西インド

1903年

乾板写真

**Chuta Ito**

Photographic plate

1903



伊東忠太

〈慈福寺香炉〉

(清) 山西省五台县五台山

1902年

乾板写真

**Chuta Ito**

Photographic plate

1902



伊東忠太

〈マハーボディ寺院の

南欄楯彫刻〉

ボードガヤー、東インド

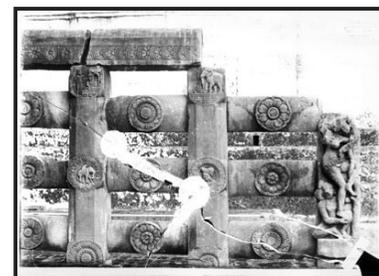
1903年

乾板写真

**Chuta Ito**

Photographic plate

1903



伊東忠太

〈リンガラージャ寺院〉

ブバネシュワル、

東インド

1903年

乾板写真



**Chuta Ito**

Photographic plate

1903

伊東忠太

〈シャー・ハマダーン・モスク〉

スリナガル、カシミール

1903年

乾板写真



**Chuta Ito**

Photographic plate

1903

伊東忠太

〈アルバート・

ホール美術館〉

ジャイプル、西インド

1903年

乾板写真



**Chuta Ito**

Photographic plate

1903

伊東忠太

〈スーリア寺院〉

マルタンド、カシミール

1903年

乾板写真



**Chuta Ito**

Photographic plate

1903

伊東忠太

〈木造モスク〉

スリナガル近郊、

カシミール

1903年

乾板写真

**Chuta Ito**

Photographic plate

1903



伊東忠太

〈アゼム宮殿〉

ダマスカス、シリア

1904年

乾板写真

**Chuta Ito**

Photographic plate

1904



伊東忠太

〈木造モスクの細部〉

スリナガル近郊、

カシミール

1903年

乾板写真

**Chuta Ito**

Photographic plate

1903



伊東忠太

〈バックス神殿〉

バールベック、レバノン

1904年

乾板写真

**Chuta Ito**

Photographic plate

1904



伊東忠太

〈ウマイヤ・モスク〉

アレppo、シリア

1904年

乾板写真



**Chuta Ito**

Photographic plate

1903

伊東忠太

〈ユピテル神殿〉

バールベック、レバノン

1904年

乾板写真



**Chuta Ito**

Photographic plate

1904

伊東忠太

〈円形(ヴィーナス)神殿〉

バールベック

1904年

乾板写真



**Chuta Ito**

Photographic plate

1903

伊東忠太

〈ジュピター神殿〉

バールベック、レバノン

1904年

乾板写真



**Chuta Ito**

Photographic plate

1904

伊東忠太

〈バックス神殿〉

バールベック、レバノン

1904年

乾板写真

**Chuta Ito**

Photographic plate

1903



伊東忠太

〈ペルガモンの闘技場〉

ベルガマ、トルコ

1904-5年

乾板写真

**Chuta Ito**

Photographic plate

1904-5



伊東忠太

〈バックス神殿〉

バールベック、レバノン

1904年

乾板写真

**Chuta Ito**

Photographic plate

1903



伊東忠太

〈アポロ神殿〉

ディディマ、トルコ

1904-5年

乾板写真

**Chuta Ito**

Photographic plate

1904-5



## 伊東忠太

〈アポロ神殿〉

ディディマ、トルコ

1904-5年

乾板写真

## Chuta Ito

Photographic plate

1904-5



〈伊東忠太の世界展 2003年4月12日～8月31日より〉 伊東忠太は1902年から、3年3か月をかけてアジアを巡る世界旅行を敢行。それは自らが打ち立てた「法隆寺・エンタシス・ギリシャ伝来説」\*を検証する旅だった。法隆寺の源流を求めて中国、インド、トルコ、シリアなどを廻るこの旅行中、忠太はガラス乾板で建物や風景を写真に収め、さらに多量のスケッチであらゆる「アジアの形」を克明に記録していた。本展では、2003年展示したガラス乾板写真の中から一部を紹介。

\*法隆寺の円柱がギリシャ建築に由来するという学説。伊東忠太が1898年発表の博士論文「法隆寺建築論」で展開。エンタシスとは円柱の中央部の微妙な膨らみ。

## 伊東忠太

〈円形劇場〉

エフェソス、トルコ

1904-5年

乾板写真

## Chuta Ito

Photographic plate

1904-5

